

会派 都伸クラブ

令和元年度

行政視察報告書

視察日：令和元年 10 月 30 日（水）～11 月 1 日（金）

視察地：高知市（全国市議会議長会研究フォーラム）、池田市



参加者 都伸クラブ 3 名 公明 3 名 計 6 名

黒木 優一 榎木 智幸 中村 千佐江

大浦 さとる 佐藤 紀子 音堅 良一

提出者 黒木 優一

1 日目 10月30日(水) 晴れ

【研修場所】 高知県高知市 高知ちばさんセンター

【研修項目】 全国市議会議長会研究フォーラム

I 研修概要

1 基調講演

講師 中島 岳志 氏(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)

演題 「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」



2 パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター

坪井 ゆづる 氏(朝日新聞論説委員)

パネリスト

高部 正男 氏(市町村職員中央研修所学長)

横田 響子 氏(株コラボ代表取締役・お茶の水女子大学客員准教授)

古川 康造 氏(高松丸亀町商店街振興組合理事長)

田辺 剛 氏(高知市議会議長)



2日目 10月31日(木) 晴れ

【研修場所】 高知県高知市 高知ちばさんセンター

【研修項目】 全国市議会議長会研究フォーラム

I 研修概要

1 課題討議「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター

坪井 ゆづる 氏(朝日新聞論説委員)

事例報告者

滝沢 一成 氏(上越市議会議員)

久坂 くにえ氏(鎌倉市議会議長)

小林 雄二 氏(周南市議会議長)



II 感想

基調講演は、政治の基盤を ①配分をめぐる縦軸と②価値をめぐる横軸で、現在の自民党政権や過去の政権を分類しながら、リベラルや保守についての考え方を説明された。

内容的には理解出来たが、実際の政治活動には結びつかないかと思った。

パネルディスカッションと課題討議は「議会活性化の船中八策」という共通のテーマで続いた。

それぞれのパネリストと事例発表者が、自分が考えている議会の課題等や、暮らしている地域の課題や事例を話されて、参考になった。

低投票率、女性の議員がなぜ増えないのか、議会改革等については考えることが多かった。

今回、各自治体の議会改革の取り組み状況を知ることができてよかったと思う。

高松丸亀町商店街の再開発には議会の協力があったとのことであり、本市議会も積極的に市民の活動に関わらなくては、ならないと改めて感じた。

Ⅲ 成果及び市政への反映

若者や女性がなぜ議員を目指さないのかという課題については、事例発表にあったように、議会報告会において市民との意見交換のテーマとして取り組んでいくといいと思う。

行政の監視機能の充実という点では、予算及び決算審査の説明資料に過去 3 年間の予算額や事業実績等を掲載させるべきだと思う。

また、指定管理者制度のように各委員会に共通するものがあれば、統一した調査方法を研究して同時に審査をやっていってもいいのではないかなと思う。

3 日目 11 月 1 日（金） 晴れ

【視察場所】 大阪府池田市

【視察項目】 「教育のまち池田」の取り組みについて

◎ 応対者 池田市議会 荒木 真澄 副議長 事務局 西原 陽子 主任主事

◎ 説明者 教育部教育政策課 前川 亮太 指導主事

I 研修概要

※「いけだの教育がわかる本」（別添資料有）に沿って、パワーポイントにて説明があった。

※事前の質問の回答を文書で頂いた。（別添資料有）

● 義務教育の 9 年間を見通した「小中一貫教育」を大切にしながら「多彩な取り組み」を推進している。主なものは以下の通り。

- 1 英語教育の充実——グローバル化社会への対応
- 2 学習環境の充実——安心して学べる場の保障
- 3 ICT 教育支援——情報社会への対応
- 4 家庭学習・子育て支援——保護者のニーズに対応
- 5 幼児教育の充実——義務教育スタートをサポート
- 6 外部人材の活用——優れた指導者によるサポート

● 小中一貫教育は中学校区を単位として 5 つの学園で行っている。4 学園が分離型で「ほそごう学園」だけが一体型となっており、1～4 年生は私服、5・6 年生は標準服、7～9 年生が制服になっている。

● ほそごう学園は特認校となっており、2 年間で 20 名が校区外から通学している。



Ⅱ 感想

ほそごう学園だけが一体型の義務教育学校であり、3段階の成長過程に応じた教育が取り入れられており、良い制度だと感じた。その他、ゴルフ体験学習、のど自慢大会、放課後遊べるDAY等、興味を引くイベントが取り入れられており、楽しそうである。

他の4学園は分離型だが、小中学校の連携及び交流が積極的に行われており、中1ギャップ等の問題がないように考えられた取り組みがされており、児童生徒を大切にしていると感じた。

Ⅲ 成果及び市政への反映

本市でも小中一貫教育には早くから取り組まれている。特に、学力向上においては、有効な手段だと思う。

また、地域との連携といった面では、学校運営協議会が有効に活用されており、今後も継続していけばよいと思う。

外部人材の活用についても取り組まれているが、高等教育機関が近くにあるかないかで、活用に差が出ないように検討が必要かとも思う。

今回の「教育のまち池田市」の取り組みは、上述のように多くのことについて、本市でも取り組んでいることなので、今後も進化させながら実践してほしいと思う。

第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知・報告書

榎木 智幸

令和元年 10 月 30・31 日（水・木）

（内容所見）

＜現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性＞

政治のマトリクスには、配分と価値をめぐる縦・横軸で表すことができ、縦をリスクの社会化と個人化に分け、横をリベラル(自由)とパターナル(封建主義)に分け、これまでの自民党 50 年の歴史の中でそれぞれの総理大臣の特徴を図表で表し、自民党がなぜこんなに長くつづいてきたのか、また、立憲民主党が埋没したのかの話であった、自民党は大平内閣のときには特に「政治は 60 点でなくてはならない、思いあがってはいけない」と「自分と違う考えも認める」思想があり、多くの意見を尊重して最後はまとまって政策を打ち出してきた歴史があるのに対し、立憲民主党は、国民に党の主張が見えず、党内でも参議員で身内争いをしていたことが党の衰退をまねいた。またリベラルとは、起源が宗教戦争にあり、「異なる他者と如何に共生するのか、個人の価値の領域には土足で踏み込まないなど消極的自由と積極的自由がある、一方保守とは、多くの著名人を上げ「伝統主義」「フランス革命についての省察」で人間は不完全であり、個人の理性を超えた存在として、集団的経験値・良識・伝統・慣習などが挙げられた。その中で、保守を守るためには膨大な過去の蓄積・知的財産を改革していくことであり、そのためには、過去の相続した歴史的財産に永遠の微調整を加えることである。まさに生き残るためには変化しつづけなければならないと感じた。政治も常に進化していかなくてははいけない。

パネルディスカッション＜議会活性化のための船中八策＞

朝日新聞論説委員の坪井ゆづる氏がコーディネーターとして、坂本竜馬が日本の歴史を大きく変えた「船中八策」にあやかってこれからの議会の改革について議論がなされた。まずは、それぞれの立場から見た議会のあり方と活性化策について、それぞれのパネラーから発表があった、はじめに、市町村職員中央研修所学長の高部正男氏は、「市議会についての現状認識」として、改革への取り組みとして基本条例制定が 60.8%で報告会においては 53.7%との報告があり、自治体議会について指摘される問題点として、①投票率の低下→議会への無関心②無投票当選の増加→議員のなり手不足③議員構成の偏り→女性・若者の参加④政務活動費の不正使用等→議員不祥事を挙げられ、市民は議会が何をしているのかわからないし執行部追認機関になっていると思う方が多くいるとのことでした。そして、「自治体議会をめぐる状況の変化」として、合併による市町村議会議員数の減少と議会運営の弾力化を上げられ、選挙制度に問題があるのではないかと「議員の兼業」あり方ももっとゆるやかでいいのでは、市全体の代表ではなく県議のように地域の代表選挙でもいいのではないかななどの意見が出され、議会運営面では「政策立案機能」に力を入れすぎ

ずに「行政管理」に力を入れるなど、議選も含め「監査機能」を高め、予算にとどまらず決算認定も問題点を文にまとめ次年度に生かす行政評価が求められるとのことでした。

二番目のパネラーとして、横田響子氏(株コラボラボ代表/お茶ノ水女子大学客員准教授)からは、約 2500 名の女性事業主コミュニティを運営されている視点から、議会に必要なこととして①20 年後の長期の視点で議会活動を行っていますか？②やりっぱなしではなく(E B P M)データーを基に P D C A をおこなっているのか？③若い女性を巻き込みでの活性化策はあるのか？の思いがあり、これからの議会には「人口減少を前提に長期的な視点で議論すべき」また「多様な人材でガチンコ会議を開く」、「経験の機会提供」提案がありました。

三番目のパネラーとして、古川康造氏(高松丸亀町商店街振興組合理事長)からは、高松丸亀町まちづくり戦略と題して、まちづくりへの取り組みと市議会議員のまちづくりへの理解なしになしえなかった、議会の議決に感謝しておられた、またまちづくりの中で、事業を展開する上で大切なことは「商店街が公共性を重視し市全体の利益を考える」取り組みが大切といわれ、市議会の役割の大きさを強調されていた。

四番目に、田辺剛氏(高知市議会議長)からは、高知市と市議会の概要があり、議会改革の取り組みも報告された、インターネット等での情報公開に加え、特に地方自治法 96 条の 1・2 項を取り上げ議会の能力を上げることに努め、首長の追認機関ではないことを示すべく取り組んでいる旨の報告がなされた。

二日目も、坪井ゆずる氏のコーディネートでパネルディスカッションが行われ「議員のなり手不足」と「女性の議員活用」をテーマに議論がなされた。はじめに、滝沢一成氏(上越市議会議員)から、「市議を目指しやすい環境整備への提言」として、議員のなり手が無く議長提案で、「市議を目指しやすい環境整備検討会」を設置した、阻害要因を探し取り除けばいいと議員は思っていたが、市民の声は「目指せないのではなく、目指さない」のであって「議会のことは知らないし、知りたいとも思わない」＝「やりがい全く感じられない、存在価値を感じられない」などがあり、議会活動や魅力が市民に伝わっていない現状に気づかされた、そこで 1 年かけてホワイトボードミーティング研修手法を取り入れ、アンケートも取り入れ、市民との意見交換を 19 回行って「なぜ、若者・女性は市議会議員を目指せないのか」「どんな阻害要因をなくしたらあなたは議員に出馬するのか」「市議会に求めること」をテーマに参加者に配慮して昼・夜の 2 回開催した。その結果早急に取り組むべき 7 点を選出①議会傍聴の改革・活性化②模擬議会、議会体験学習の実施③意見交換会の改革④広報 P R の充実⑤選挙マニュアルの作成⑥議員報酬の適正化⑦女性フォーラムの開催、等が出され、答申後、議会での前進に向けての検討は年度末を迎えて十分な検討ができず継続検討となった、まとめとして、魅力のある議会を作るためには「住民協働力」「行政との対峙力」「立法力」「情報収集発信力」の揃った議会にしていくことになったと報告があった。この報告を聞き本来我々議会が持っている役割と権能をさらに深めることこそが、議会の魅力に繋がると感じた。

二番目に、久坂くにえ氏(鎌倉市議会議員)から「女性議員の現状の視点」をテーマに報告がなされた。若い女性議員が少ない背景には、顕在化した課題がある、議会の会議規則には、女性議員の出産のときの規程がない議会が多いことや会議運営において、多様なバックグラウンドを抱える議員への配慮が足りないなどのことを上げられ、「豊かで活力ある社会の実現」のためにも、女性議員だけに留まらず男性議員も含めた環境整備が求められると訴えておられた。この方のお話を聞き都城市議会では出産に対する規則は設けているのか気になり、調べたところ整備されていたので、今後まだまだ不十分なところはあるが、出産を控えている女性も大いに市議会議員へ名乗りを上げてほしいものだと感じました。

三番目に小林雄二氏(周南市議会議員)から、事例報告がなされ、周南市は平成15年に近隣の2市2町で合併をし、2年の在任特例で78名でスタートし報酬の一本化を打ち出したところ報酬審議会や市民団体に反発を招き16年には住民投票が行われ即日解散となった経緯がある。合併後1年での議会解散となってしまった、このような状況を踏まえ改選後は「議会改革」に積極的に取り組まれた、15回に及ぶ委員会を重ね「開かれた議会をめざして」検討され①ホームページの充実②傍聴席のモニター設置③議会だよりの見直し④委員会のケーブルテレビ中継を決定して実施された。また、行政監視機能の充実に力を入れ、委員会による各種団体との懇談会も積極的に行ってきた。また、平成22年度から「市議会行政視察受け入れ拡充事業」を展開されており平成30年度は92件745名の受け入れ実績を納めておられました。今回の高知での研修では、どこの市議会も議員のなり手がいないことへの危機感を感じた、報酬・環境整備の重要性や女性の参加を促す手法が必要になってきている、都城市でも女性は29名中4名と少ない状況だ、また平均年齢の上昇も気になるところだ、また、市民に一番近い市議会議員選挙も40%台と振るわない、市民の関心が薄くなっていることを感じる特に若い有権者の投票率が少ない、我々現役がもっと議会の重要性を訴えていく必要性を強く感じた研修でありました。

大阪府池田市「教育のまち池田」の取り組み・小中一貫校教育について・教育コミュニティづくりの取り組みについて

令和元年11月1日(金)

<所感>

高知での全国議長会でお会いした池田市議会の荒木副議長にご挨拶をいただき研修に入った、教育委員会指導主事の前川亮太氏から説明を受けた。まず、池田市が「教育日本一」を平成28年度から真の「生きる力」を育む教育、生き抜く力をつける教育を目指しておられた。小中一貫校教育を大切にして就学前から義務教育9年間を見通した多彩な取り組みを推進していた。普通の一貫校とは違い、前期と後期に分けておもに「ほそごう学園」の取り組みを紹介いただいた、上級生(中学生)が下級生(小学生)に勉強を教えたり、給食を

一緒にとることでの交流を深めたり一貫校ならではの取り組みの利点を教えていただいた、9年間をステージごとに分け(1年～4年)を1ステージ(5年～7年)を2ステージ(8年～9年)3ステージに分け成長期に合わせて適切な教育を行うことができているとのことだった。環境整備も整っており先生方の育成・ICT教育支援・家庭学習支援&子育て支援・幼児教育の充実・豊かな外部人材の活用などソフト面、ハード面において充実した支援体制が整っていた、今回の研修で、一貫校における利点として感じたことは、子どもたちの異年齢での交流が盛んになり思いやりやコミュニケーション力・学習能力がつくなど幼児から高学年まで教員や関係者が連携して子どもたちの育成に繋がっていることは小中一貫校の良いところと強く感じた、また有名なアスリートが部活指導をしていることにも驚いた、さらに一貫校であれば小学校教諭が部活顧問になれると聞き、都城市の厳しい環境の改善に繋がるのではと感じた。こうした取り組みが池田市の他の学校でも形は違ってもその精神が生かされていることにも感心した、池田市長が三つの宝に「子どもたちの育成」を上げているが、少子化が進む中こうした一貫した取り組みも今後考えていかななくてはいけない時期に来ていると感じた。

都伸クラブ 視察報告書

中村 千佐江

○全国市議会議長会研究フォーラム in 高知（高知県高知市）

令和元年 10 月 30 日（水）、31 日（木）

●基調講演『現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性』

中島 岳志 氏 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授

●パネルディスカッション『議会活性化のための船中八策』

コーディネーター 坪井 ゆづる 氏（朝日新聞論説委員）

パネリスト 高部 正男 氏（市町村職員中央研究所学長）

横田 響子 氏（株式会社コラボ代表取締役／お茶の水女子大客員准教授）

古川 康造 氏（高松丸亀町商店街振興組合理事長）

田辺 剛 氏（高知市議会議長）

●課題討議『議会活性化のための船中八策』

コーディネーター 坪井 ゆづる 氏（朝日新聞論説委員）

事例報告者 滝沢 一成 氏（上越市議会議員）

久坂くにえ氏（鎌倉市議会議長）

小林 雄二 氏（周南市議会議長）

1. 視察の感想

基調講演では、リベラルと保守について漠然としていたものが理路整然と説明され、スッキリした気分になった。縦軸に、リスクの社会化（＝セーフティネット強化）とリスクの個人化（自己責任論）を取り、横軸に、リベラルとパターンルを取っての説明が印象的であった。現代社会では戦後リベラルに向かっているように思っていたが、近年確かにパターンルに向かう空気を感じる部分もある。パターンルすなわち父権的であることを保守だと捉えていたが、そうではないのだと思った。秩序を守りつつ多様性を認める寛容さを持ちたいと思う。

保守とは何かという話の落としどころにおいて、大切なものを守るために変わることが強調されていて、強く共感した。永遠の微調整、前衛的な保守、保守のための改革…これらは、政治のみならずすべてにおいて大切な心掛けではないかと思った。

パネルディスカッションでは、議会活性化について。

同じ女性であること、起業家と呼ばれること、年齢が近いことにおいて、横田氏の視点にうなずくことが多かったが、議会活性化につながる直接的な話とは思えなかった。ただ、同じく民間人である古川氏の話の中でも 100 年後を見据えてというワードがあり、横田氏も 20 年後すなわち中長期

的視点をというワードがあって、自身もかねがね考える視点であるので、会話に加わりたと思った。「今だけ、自分だけ（良ければ良い）。」では、議会に限らず、自治体そのものも、地区も、家族も、すべてのコミュニティが存続できないと思う。

高知市議会では、議員の平均年齢が上がっていること、女性議員が減ってきていることが発表された。若いから、女性だから、というのは個々が数々持ちうるアイデンティティの一つであるので、それだけを強調する必要はないと思うのだが、若い人もいて、女性も男性と同率で存在するのが望ましいと思う。一朝一夕に変革するものではないと思うが、あきらめないでいたいと思う。

二日目は課題討論で、議題は前日のパネルディスカッションと同じ議会活性化について。

鎌倉市議会議長が、40代女性であることに驚いた。驚かなくて済む時代が来ると良いなと思う。宮崎県議の内田氏もそうだが、議員をしながら出産を経験するというのはハード過ぎて想像がつかないが、そういう人がいる前提の制度があるべきだと思う。

上越市議会議員の滝沢氏は、議員なり手不足の阻害要因について「そもそも議会に興味がない（人が多い）。」とか、「やりがい全く感じられない。」などと、ハッキリした表現で論じられ、大いに共感した。議会に興味がないことについては、我々議員自身が解消に寄与できることが多分にあると思う。今後も推進していく考えである。

また、鎌倉市議会では議会が深夜にまで及ぶこともあるそうだが、事務局職員にも女性がいるはずなので、議員の中に女性がいるかどうか、その割合がどうかという議論の前に、そもそもとして健全な職場とは言い難い。男女の別に関わらず、深夜に及ぶ議会において、正常な判断力によって議論が機能しているかどうか疑わしい。当たり前のことが当たり前に行われていることを、議会だけでなく、社会全体に対して望むところだと感じた。

2. 視察の成果および市政への反映

議会を身近に感じてもらうことが、議会活性化を促進する端緒となりうる。市民にしっかり見てもらうことこそが、議会改革であると考え。本市では、本会議はケーブルテレビで放送されるが、契約していない世帯も多く、今後インターネット中継も導入するよう提言したいと考える。

上越市議会議員滝沢氏の提言のうち、「市民に関心を持ってもらう、理解してもらう、女性へのアプローチといった観点で早急に取り組むべき7点」について、③意見交換会の改革、④広報PRの充実、今年広報公聴委員会において取り組んでいる最中であり、①議会傍聴の改革・活性化は、傍聴を呼びかけるなど、常に心掛けているつもりである。今後単独でもすぐに取り組める内容として、⑤選挙マニュアルの作成、⑦女性フォーラムの開催を手掛けてみたい。⑥議員報酬の適正化も慎重な検証を行っていききたいと思う。②模擬議会、議会体験学習の実施等も前向きに検討したい。

○『教育のまち池田』の取り組みについて（大阪府池田市）

令和元年 11 月 1 日（金）

1. 視察の感想

ほそごう学園については、小中学生を持つ保護者の一人として行かせられるなら行かせてみたいと思った。給食の取組や、制服についてなど、よく考えられていると思った。

また、小中学校の先生がそれぞれ、小中学校を通して子どもの顔と名前を知っていてくれることは、すごく心強いと思う。

特色の中で、「チャイムが鳴らない」というものがあって、これは小中学校で時間割が異なることにも起因すると思われるが、自身が通った中学校もチャイムが鳴らなかったことを思い出した。自律的に動くことができていて、良かったように思う。今思えば、チャイムが必要なのだろうかという気もする。

メリットとデメリットは表裏一体であるという話があったが、デメリットとして挙げられた人間関係の固定化などは、小中一貫校でなくても起こりうる事態であるし、デメリットを恐れず、より良い教育環境の追求をしていてもらいたいと思った。

本市において特認校というと、「不登校児の受け皿」というイメージがついているらしい。地元の方でさえもそのように認識している人が少なくなく、驚いたことがある。不登校児が特認制度を利用して校区外から通学している実情もあるのだが、それで元気になってくれていることを地元の方々が心から喜び受け入れていることは非常にありがたく思っている。だからこそ、特認校に通学する児童生徒が必ずしも不登校児だということではなく、例えば私が、ほそごう学園の取り組みを知って我が子を通わせたいと思ったように、積極的な理由で特認校を選択して通学するのだという認識が広がることを願う。

2. 視察の成果および市政への反映

本市でも、小中一貫教育が行われているようだが、学力向上の面で一定の効果が表れているのであれば、敷地が隣接する小中学校など特に、給食時の交流など取り入れられそうな取り組みは多いと考える。

生徒数が減っている地域での学校運営においては、小学校においての理科や音楽、体育などの専科は、中学校の先生にお願いすることも検討してはどうかと思う。教員の負担増にならない範疇で、実情に沿った提言を考えたい。